



今月のコラム

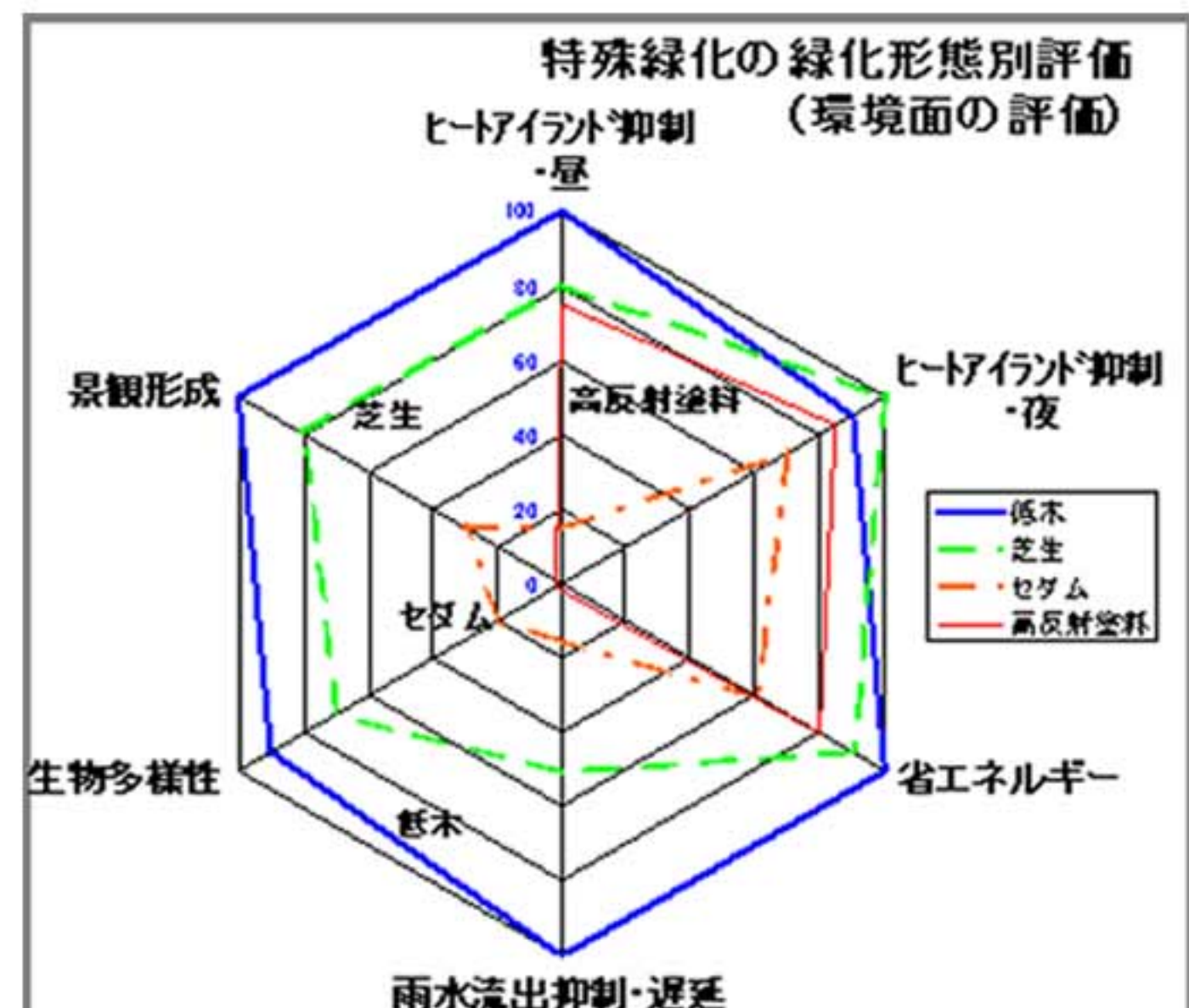
藤田 茂 (有)緑花技研

「建築物緑化の緑化形態別効果の評価比較」

現在屋上緑化等において、都市のヒートアイランド現象緩和効果が新聞等で取り上げられているが、緑化であれば全て同じ効果を持っている訳ではないはずである。緑化形態別による環境面における効果比較を、種々の文献、実験結果より総合的に私案として評価してみた。かなり大まかな評価であり異論もあると思われるが、各緑化形態に緑化以上の温度改善効果を持つとされる高反射性塗料も加えた。効果項目の内、生物多様性、景観形成などは数値的な評価が困難であり、世間一般での相対的評価により判断した。また、インシヤルコスト、ランニングコスト等の負の評価も行なった。ここでは利用に対する効果を評価していないが、緑化の最大の目的は観賞等も含めた利用面であり、この面の評価基準が出来てこない、緑化の正当な評価とはいえない。今後この面を検討し、正しい緑化の評価基準を作り上げる活動を行なって行きたい。

1. 緑化形態別環境面の評価

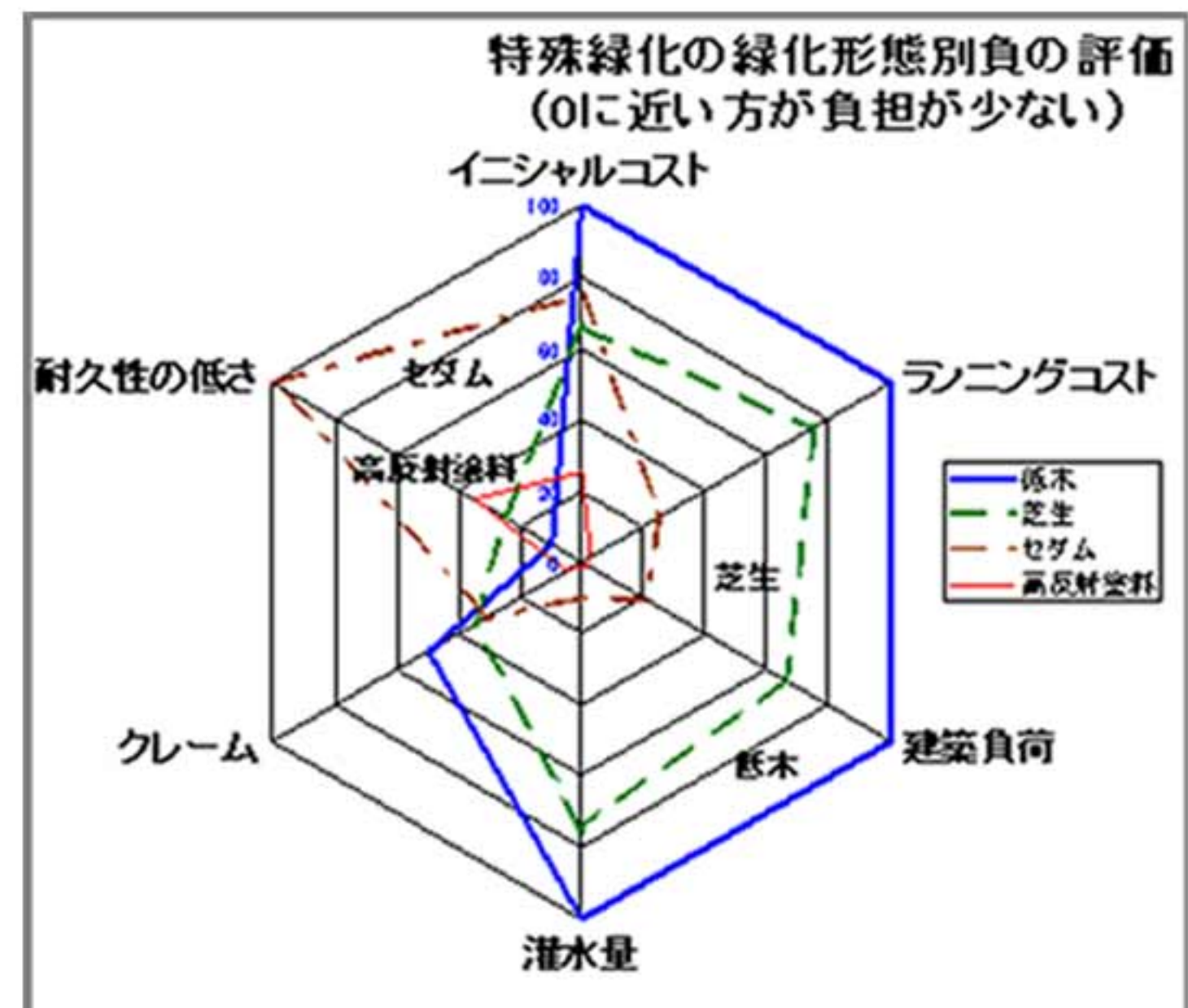
- ①ヒートアイランド現象抑制効果（昼）：
緑化された部分の昼間の表面温度により評価する。気温と比較し同等以下の場合（約 30℃）を 100、同一屋上面の押さえコンクリート表面温度と同等の場合（約 50℃）を 30とした。
- ②ヒートアイランド現象抑制効果（夜）：
緑化された部分の夜間の表面温度により評価する。気温以下の場合（約 25℃）を 100、同等の場合を 90、同一屋上面の押さえコンクリート表面温度と同等の場合（約 40℃）を 0とした。（熱帯夜抑制）
- ③省エネルギー効果：
緑化の基盤最下層の温度により評価した。1日の温度変化が 0℃の場合を 100、押さえコンクリート表面の1日の温度変化（約 20℃）を 0とした。
- ④雨水流出抑制・遅延効果：
この効果は基盤土壌の厚さにより変わるため、土壌厚 20 cmの場合を 100、15 cmを 75、5 cmを 25とした。



2. 緑化形態別負の評価

特殊緑化による負担（負の効果）を評価した。

- ①インシヤルコスト：4万円 / m²を 100、2万円 / m²を 50とした。
- ②ランニングコスト：2千円 / m²を 100、千円 / m²を 50とした。
- ③建築負荷：土壌厚 20 cmを 100、15 cmを 75、5 cmを 25とした。
- ④灌水量：夏季の灌水量 50ℓ / m²を 100、30ℓ / m²を 60とした。





最新 NEWS

◆東京デザイナーズウィーク2007開催

世界20カ国から企業、学校、大使館、デザイナー、ショップなどが集まり最新デザインを紹介する国内最大規模のデザインの祭典「東京デザイナーズウィーク2007」（主催 NPO 法人デザインアソシエーション）が10月31日～11月4日、明治神宮外苑中央会場で開催された。メイン企画の「100% Design Tokyo」は、昨年より会場を1.5倍に拡大し、国内外から約150の企業やデザイナーらが参加し、インテリアや生活雑貨などの最新デザインを競い合った。ガーデン関係では来年には50周年を迎えるニチエスのブースが、新たなガーデンの楽しみ方をデザイン性の高い商品で展示し、注目を集めていた。大学など国内外約50校の参加による「学生作品展」では、“地球環境を配慮した公園に設置する、ストリートファニチャー”をテーマにした作品が並び、熱いメッセージが発信されていた。



庭というステージに新たな価値観を提示するニチエスの出展ブース

◆「花き生販連携促進交流大会2007名古屋」開催

花き業界の生産・流通・小売の連携強化を目的とした「花き生販連携促進交流大会2007名古屋」が11月6日、日本ガイシフォーラム「レセプションホール」（名古屋市南区）で開催され、38団体の出展で活気ある交流が図られた。大会は今回で6回目を迎える。セントラルローズの大西隆氏による「バラの方向性を探る」と題した講演では、「楽しみ方、育て方を伝えてこなかったことが今日の低迷を招いている。花色や器の色を変えるだけでなく、その後のフォローが今後の課題」と警鐘をならし、「自社のミニバラも温度管理のもと作る、ある意味石油製品。今後はもっと自然に育つバラも計画中。何しろ大変な時代だか、花は絶対にすたれません！」と力強く参加者に訴えた。出展ブースでは、「バルディア」などの新品種を紹介。桑花園はサンスベリアを「虎の尾」と観葉植物を漢字表記にし、男性向けにイメージチェンジ。“団塊男性の書斎に、簡単な盆栽感覚で”と再提案した。

今月の会員紹介 岐阜大学応用生物科学部 福井博一

バラを中心として、花き園芸全般について研究しています。

現在の主な研究課題は（1）バラの耐病性育種、（2）堆肥の熟度判定と園芸利用、（3）倍数性育種による新しい花き品種の開発、（4）世界の花き生産と流通（中国は特に詳しい）、（5）花き生産システムの開発、などです。

大学では珍しく生産・流通現場に密着した研究室で、生産者、流通・販売関係者、農業資材業者などからの質問、相談にも随時お答えしています。

ご質問・ご相談は fukui@gifu-u.ac.jp までご遠慮なくお寄せください。

ホームページには、国内・海外の花き生産地紹介、各種園芸生産情報、詳しい講義録の他、花き業界への思いを綴った一言コラムや、花き関連業者リンク集など情報が満載です。是非、一度ご覧ください。

<http://www1.gifu-u.ac.jp/~fukui/index.htm>

（『岐阜大学 福井』で検索いただくと簡単です）

事務局だより

2007年、会員の皆さまがもっとも幸せだった瞬間はいつでしたか？

私は、ビリーズ・ブート・キャンプのおかげで、諦めていたスカートが入ったときでした！効果が出ると油断して、今はすっかり元に戻ってしまいましたが・・・

5月の「kaede」創刊以来、多くの方にお世話になりましてありがとうございました。

来年は、もっと充実した内容でお届けできるよう頑張ります。引き続き、会員の方へは、「kaedeで紹介させていただきます」と突然のご連絡を差し上げるとはと思いますが、その時はどうぞご協力お願いいたします。

名古屋駅前の冬の風物詩「タワーズライツ」ビル壁面の、LEDで装飾されたお城がきれい！



ガーデンを考える会 事務局

〒451-0045 名古屋市西区名駅2-25-10 ヤマエイビル4F

TEL: 052-571-7911 FAX: 052-571-2208

E-mail: npogarden@green-joho.jp